

チューリップ球根植付

11月13日(土) 直方リバーサイドパーク

直方河川敷リバーサイドパークにて今年もチューリップの球根植付が行われました。例年よりも植付範囲が広くなり皆さん大変そうでしたが、とても充実した時間となりました。来年の春が楽しみです。



新事業所オープン 放課後等デイサービス「あゆみの杜」



L.石田和弘が7月1日に新事業所をオープンしました。放課後等デイサービスとは児童福祉法に基づく障害児通所支援の1つで、小学生から高校生までの障がいもしくは発達に特性のあるお子さんが、放課後や夏休みなどの長期休暇に利用できる福祉サービスです。「あゆみの杜」では一人ひとりの個性にあった支援を行い、子どもたちの「第3の居場所」としてアットホームな環境で安心して楽しく過ごせる場所を提供しています。

〒822-1202 福岡県田川郡福智町神崎 1533
TEL 0947-23-0903

レモネードスタンド

11月14日(日) ふるまち商店街

コロナ禍という事もあり、手作りのレモネードではなく缶ジュースを配布しながらのレモネードスタンドを行いました。募金額は93,432円となり、大変多くの方々にご協力いただく事ができました。



新店舗オープン ル・ミトロン食パン 直方店



L.永松竜が10月22日に新店舗をオープンしました。「毎日食べたくなる味」を目指して 一斤一斤丁寧に焼き上げる食パンは『ふつより、ちょっといいもの』がコンセプトです。特別な日に食べる食パンではなく、毎日の暮らしの中で食べることが出来る食パンだからこそ、素材にこだわり、手間ひま惜しまず丁寧に焼き上げてます。「毎日、当たり前においしい食パンを食べたい」そんなパンが大好きな皆様の暮らしに寄り添う「街の食パン屋さん」それがル・ミトロン食パンです。

〒822-0032 福岡県直方市大字下新入 604
TEL 0949-52-6238 10:00~19:00 (無くなり次第終了)

クラブ会報『年輪』 第620号(2021年) 令和3年12月14日(火)

編集/発行 直方ライオンズクラブ第三委員会

福岡県直方市殿町7-50 直方商工会議所ビル3F

ホームページ▶<http://www.noogata-lions.com>

TEL(0949)22-4530 FAX(0949)22-4531

メール▶office@noogata-lions.com

2021
12
DEC
No.620



ライオンズクラブ国際協会 337-A地区 3R-1Z
直方ライオンズクラブ会報誌

年輪



NOGATA LIONS CLUB BULLETIN NENRIN

第五委員会委員長

森 勇馬

ライオンズクエスト プログラムとは

令和3年10月4日(月)、八
仙閣本店で開催された「337-A
地区第3回ライオンズクエスト
委員会」に参加いたしました。
私は、恥ずかしながらクエス
ト自体存じ上げておりませんで
したので、ライオンズクエスト
のホームページの情報を拝借し
つつ報告いたします。カタカナ
が多いですがご容赦ください。
クエストとは、「ライオンズク
エストプログラム」のことです
が、これはクエストという教育
研究機関が開発しライオンズク
ラブが世界中で普及活動をして
いるライフスキル教育に関する
プログラムです。「ライフスキル

とはがまん・はじめ・積極性な
ど自分自身をコントロールする
能力やあいさつ・思いやり・コ
ミュニケーションなど、他の人
とうまくかわる能力を合わせ
て行動する能力とこのことでアカ
デミックスキル(頭の中で覚え
たり理解したり考えたりする能
力)と対をなすものです。
ライオンズクラブは地域の学
校等においてワークショップ(研
修会)を開催しファシリテーター
(講師)の指導の下、教師や保護
者などの参加者が教材や手法を
使って活動しながらプログラム
の考え方や指導スキルを学ぶ機
会を提供しております。ワーク
シヨップ自体は各クラブが主催
して行うのですが、クエスト委
員会ではその援助や情報共有を
行っているように見受けま
す。
われらが直方ライオンズクラ



ロゴマークは未来ある子どもや
若者とそれを見守り支えようと
している大人たちを2つの手で
表現し、プログラムの真髄を伝
えています。

ブでは従前から企画をしてい
たようですがコロナウィルス
感染拡大に伴い2度中止した
経緯があります。
私は、当日の委員会で指名さ
れたことからつい「今度こそ
はクエストを開催します！」
と宣言してしまいました。委
員会とは怖いところです(笑)。
ということと令和4年2月
11日頓野幼稚園にてクエス
トプログラムを決定いたしま
す。ご興味のある方はどうぞ
ご参加ください。

活動報告 I



ライオンズ・デーで清掃活動

～秋らしい一日 良い汗を掻きました～

第四委員会 委員長 向野 正弘

秋晴れとなった10月24日の日曜日に、ライオンズクラブでは会員19名・関係者1名の合計20名で清掃活動を行いました。なお、本年度はコロナ禍の動向を見ながら場所と日程を選定する必要がありましたので、慎重に検討した結果、居立川親水公園の清掃活動を行うこととし、ごみ拾いに加えて除草と落葉掃きも実行することにしております。コロナ禍の一段落した秋らしい一日に市民の利用が多い公園をきれいにすることで、自分自身の心もきれいになりとても良い汗を掻くことができました。計画当初の予定日より遅れはしたものの、ライオンズ・デーの趣旨に則った世界のライオンズ活動に繋がる事業になったと思います。例年同様に、本年度も佐藤基幸(株式会社ニシゲン)に協賛いただいております。ニシゲン様をはじめ、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



さんばのちょう ～三羽の鳥～について

第四委員会委員長 向野正弘

記事中に「フクロウ、カラスをイメージした」とあります。確かに一羽はフクロウ、一羽は、カラスだとわかります。もう一羽は何でしょうか？ここからは私の推測ですが、その他の諸々の鳥を含意しているのではないのでしょうか。直方は様々な渡り鳥の通過する地域で、鳥好きの方を飽きさせないそうですよ。

また三羽の鳥の説明碑には「昭和四十年四月吉日」と記されています。昭和四十年は、1965年ですからとても歴史あるオブジェですね。一方、説明碑自体は意外に新しく2010年度(おそらくは2011年の年初)に設置されています。松村ライオンの父が会長時代という事も時代を感じさせますよね。このように歴史を紐解くと、意外な偉人や意外な風景に邂逅することがあります。そしてその一助を直方ライオンズクラブが支えていたということも興味深いですね!

向野ライオン、ありがとうございました。

日之出橋の駅側に飾ってある三羽の鳥は直方市民なら一度は見たことがあるはずですが、でもそのオブジェが直方ライオンズクラブと深い関係があることはあまり知られていません。

今回は、上野育ちで現在はボストンを拠点とし、世界を舞台に活躍する陶芸家の高橋元(こうづるはじめ・通称はこうづるげん)氏と三羽の鳥(さんばのちょう)について向野ライオンより記事を頂戴しました。

高鶴氏は2005年の西日本新聞のインタビューにて三羽の鳥について下記のように語っています。

「三羽の鳥」は同市外町の遠賀川にかかる国道の日之出橋を飾る記念碑です。直方ライオンズクラブと県土木事務所から話がありました。フクロウ、カラスをイメージした高さが二メートル近くある三体のオブジェです。鉄筋コンクリート製の基礎に白、黒、緑の陶片をはめ込んで作りました。当時、芸術作品を飾った橋というのは九州にはなかったため、ずいぶん話題になり、土産用に「三羽の鳥」のミニチュアも誕生しました。



今年の書き初め大会は作品公募～エントリー300名突破!!

新春書き初め大会

書き初め大会実施部会 部会長 清水 正嗣

今年も書き初め大会の時期がやってきました。今年で第13回を迎える当クラブの伝統ある事業です。前回は大雪と新型コロナウイルスの影響で中止となり、大変悔しい思いをしました。今大会はコロナ禍の現状を鑑み、例年通りの書初め大会ではなく、作品を公募し開催するようになりました。前回の悔しさをバネに今大会は是非とも成功させたいと思っています。会員の皆様も各学校へのパンフレット、申込書等配布にご協力いただきありがとうございました。また、1月22日(土)、23日(日)にはイオンモール直方にて作品の展示、表彰式を行う予定です。引き続きご協力をお願いします。

第13回 新春書き初め大会

例年通りはコロナ禍の現状を鑑み、作品を公募し開催致します。

参加資格

- 直方市及び小竹町の小学3～6年生の児童
- 直方市及び小竹町の中学1～3年生の生徒

応募点数

- 一人1点(出品用の半紙はライオンズクラブで用意したもの)

申込締め切り

- 12月3日(金) 申込書を学校に提出(提出時に出品用の半紙を配布いたします)

作品提出期限

- 1月11日(火) 始業式の日(学校)に作品を提出(提出期限を過ぎると審査対象外となりますのでご注意ください)

参加者全員に参加賞があります

参加無料

高鶴元 略歴・解説

福岡県田川郡赤池町(現福智町)に上野焼窯元高鶴夏山の長男として生まれる。昭和32年佐賀県立有田工業学校窯業科を卒業後、家業を継ぐ。同40年独立し粕屋郡久山町に築窯。同43、44年に日本伝統工芸展で連続受賞し日本工芸会正会員となる。ハーバード大学での陶芸指導のため同55年に渡米、ピーボディ博物館の研究員等も務める。以後、極彩色のオブジェや陶板など前衛的な作品を日米で発表する。古上野焼の研究者としても知られる。